

# 広報広聴委員会行政視察報告書

- 【視察日】 令和 元年 8 月 7 日（水）～ 8 月 8 日（木）
- 【視察委員】 山本信行委員長、石井通春副委員長、八木 勝委員、増田克彦委員  
深津寧子委員、神戸好伸委員、油井和行委員
- 【視察先】 千葉県成田市、埼玉県寄居町

## 《8月7日(水)成田市》

### 【調査事項】 「議会だよりの編集・発行、意見交換会について」

#### ① 市の概要と取り組みの経緯・内容・評価

成田市は千葉県北部中央の北総台地に位置し、北は利根川に、西は印旛沼に接する、面積約 214 平方キロメートル、人口は約 13.1 万人の都市。また、日本の表玄関、成田国際空港を擁し、国際観光都市として年間約 1,400 万人のお客様を迎えている。

成田市議会では、広報広聴委員会を 2 つに分け「広報部会」は議会だよりのホームページ、SNS を担当。「広聴部会」は議会報告会、高校生との意見交換会等を担当している。

広報誌では、中身が見たくなるようなインパクトのある表紙や、ハイライトとして身近な議案等をピックアップし、AR を活用するなど、「見やすく分かりやすく」をモットーとしている。

高校生との意見交換会は、3 月の春休みに開催し、生徒会を中心に各校 5 名～6 名ずつ参加。事前に生徒にアンケートを実施して話題が途切れない工夫をして意見を聞いている。

#### ② 今後の課題

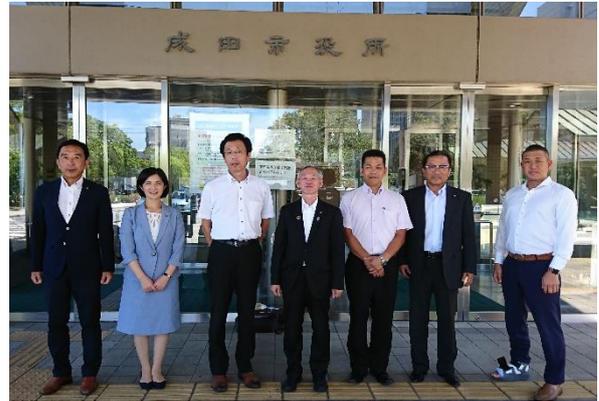
表紙の写真について、これまで話題性のある写真を使ってきたが、子どもの写真など、多様化に向けてどうするかが検討課題。

#### ③ 本市に反映できると思われる点

議会広報誌は、レイアウトや構成を工夫し、横書き・UD フォント・標題のロゴ・左綴じ等、インパクトのある記事にし、「いかに市民に読んで戴けるか」は本市の課題。

市の広報誌と同一化しない、議会独自の取り組みは、今後の参考にしたい。

高校生との意見交換会では、各委員自らが手分けをして高校に出向き、直接依頼をしている点は是非、取り組んでいきたい。



## 《8月8日(木)寄居町》

### 【調査概要】 「議会だよりの編集・発行、意見交換会について」

#### ① 市の概要と取り組みの経緯・内容・評価

寄居町は、埼玉県の北西部、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出すところに位置する町で、面積は64.25km<sup>2</sup>。人口は33,515人（令和元年8月現在）昭和30年に1町4か村が合併して現在の寄居町となった。豊かな自然に囲まれ、2本の国道と3線の鉄道、8つの駅を持つ交通の要衝として、近年では、彩の国資源循環工場や大手自動車メーカー四輪車生産工場が建設されるなど発展を続けてきた。

「読まれない議会だよりは出す意味なし！」をコンセプトにクオリティーの高い議会だよりを目指し、編集している。町民に議会に参加していただく意識のもと、予算・決算・重要案件には、議会と町民の視点等を掲載、表紙と記事との連動も考えている。

また、年間の政策サイクルを意識した編集で、町民の関心が高いと思われる議案等に優先順位を付け、町民の声を委員自らが取材し、写真と共に掲載している。

寄居町の町民の視点から、見ても面白くない議員の集合写真は載せない・会議の写真などは載せない。など注意してきた。全国町村議会議長会広報コンクール2年連続優勝。



#### ② 今後の課題

議会基本条例に沿っているか？今後、議会政策モニター制度にも、取り組んでいきたい。また、障がいのある方に読みやすくなっているか？等が今後の課題。

#### ③ 本市に反映できると思われる点

印刷事業者さんを委員会に同席していただき、委員と一体となった取り組みは重要な視点。「本当に読まれているか？市民が要望する議会だよりと何か？市民にとって分かりやすいとは何か？」を、方法等も含めて早急に調査する必要がある。

また、藤枝市議会が市民に訴えたいことは何か？を再考し、基本サイクルにあった紙面構成を確認する必要がある。

住民参加の議会の在り方との視点で、住民の声を掲載することは非常に良いことだと感じた。是非、実現に向け取り組みたい。

QRコード等により、細かい内容はリンクさせる。また、市の広報誌と同じ内容は載せない。等は学ぶべき点である。

広報広聴委員の「熱と力」をいかに結集出来るかが、大事な点であることを学んだ。

